

生 物 学

教授 尾崎宏基
教務職員 荒館忠

◆ 研究概要

- ・前脳交連線維系の形成過程に関する神経解剖学的・神経生物学的研究
- ・糖尿病治療薬の開発を目的とした天然生理活性物質の探索と応用に関する研究

◆ 原 著

- 1) Nakashima M., Uemura M., Yasui K., Ozaki H.S., Tabata S., and Taen A.: An antero-grade and retrograde tract-tracing study on the projections from the thalamic gustatory area in the rat: distribution of neurons projecting to the insular cortex and amygdaloid complex. *Neuroscience Research*, 36 : 297-309, 2000.

◆ 学会発表

- 1) 尾崎宏基, 荒館 忠: マウス海馬交連の発生過程. 第105回解剖学会総会, 2000, 3, 横浜.

統 計 ・ 情 報 科 学

教授 折笠秀樹

◆ 研究概要

脳卒中QOL調査票の開発とその評価, 社会支援QOL調査票の開発とその評価, 心臓病患者や血液透析患者に対するQOL調査を実施してきた. 急性期精神病のための病状尺度の開発や, JELIS臨床試験(高脂血症)やJAPAN-KD臨床試験(保存期慢性腎不全)のデータセンターとしての活動も進行中である. 厚生省の糖尿病診療ガイドライン調査研究はほぼ完成させた. 新たに, 伝統医薬に関するアウトカム研究及び臨床試験のプロジェクト, 医学データ分析法の研究(文部省)を開始した.

◆ 著書・訳書

- 1) 松島雅人, 折笠秀樹, 田嶋尚子: 5-2. EBMと糖尿病診療. 「分子糖尿病学の進歩2000」矢崎義雄監修, 清野 進, 渥美義仁, 門脇 孝, 春日雅人編, 金原出版, pp.120-127, 2000.
- 2) 折笠秀樹: 用語解説. 「循環器トリアルガイド2000」, 井上 博, 桑島 巖, 寺本民生, 永井良三, 堀正二編, 260-265, ライフサイエンス出版,

2000.

◆ 原 著

- 1) 折笠秀樹, 内潟安子, 坂巻弘之, 森岡斗志尚, 大谷敏嘉, 大谷洋一, 岩本安彦: 糖尿病患者の病態・症状の違いとSF-36プロフィールの関連性, *臨床薬理*, 31(2) : 243-244, 2000.

◆ 総 説

- 1) 折笠秀樹: 医学論文を理解するための統計学の知識. *神経治療学*, 16(5) : 587-590, 1999. (昨年漏れ分)
- 2) 折笠秀樹: メタアナリシスとその危険性. *日本病院薬剤師会雑誌*, 36(2) : 191-192, 2000.
- 3) 折笠秀樹: 症例数はどのくらい必要なのか? *InfoMedica*, 1月号 : 16-17, 2000.
- 4) 折笠秀樹: EBMに則った診療ガイドライン. *Mebio*, 17(2) : 42-46, 2000.
- 5) 折笠秀樹, 門脇 孝, 田嶋尚子(司会): EBMに基づいた糖尿病診療のガイドライン(座談会). *今月の治療*, 8(6) : 583-597, 2000.
- 6) 太田和夫, 佐中 孜, 平沢由平, 中川雅夫, 秋澤忠男, 折笠秀樹: 低分子ヘパリン(レベパリンナトリウム)の開発とその臨床評価. *腎臓*, 22(3) : 162-185, 2000.
- 7) 折笠秀樹: EBMの実践に必要な臨床統計学のキーワード. *今月の治療*, 8(6) : 636-643, 2000.
- 8) 折笠秀樹: 標準化へ向けてのRCT論文の書き方(1). *薬理と治療*, 28(5) : 363-366, 2000.
- 9) 折笠秀樹: EBMとは何のことか? *Info Medica*, 4月号 : 16-17, 2000.
- 10) 折笠秀樹: 臨床試験における中間評価の必要性. *計量生物学*, 21巻特集号 : 1-25, 2000.
- 11) 折笠秀樹: EBMからみた高血圧治療(I): 無作為化試験とメタアナリシス. *ドクターサロン*, 44(9) : 685-689, 2000.
- 12) 折笠秀樹: 薬剤師にとって知っておきたい臨床疫学及び生物統計学—薬物療法の臨床効果を読む—. *日本薬剤師会雑誌*, 52(7) : 985-992, 2000.
- 13) 折笠秀樹: 薬物治療に伴う有害事象に関する論文の読み方. *日本薬剤師会雑誌*, 52(8) : 1121-1126, 2000.
- 14) 折笠秀樹: 糖尿病のエビデンスをどのように入手し, 利用したらよいか. *EBMジャーナル*, 1(5) : 561-567, 2000.
- 15) 折笠秀樹, 門脇 孝: EBMとガイドライン(座談会). *DITN*, No.271 : 2-3, 2000.
- 16) 松倉知晴, 折笠秀樹: 糖尿病のエビデンスの検索方法. *内分泌科・糖尿病科*, 11(5) : 432-437,

2000.

- 17) 折笠秀樹: 特集「EBMと糖尿病」No.1 EBMと今後の医療. 糖尿病クリニック, Vol.2: 5-8, 2000.

◆ 学会発表

- 1) 住吉徹哉, 荒川規矩男, 飯村 功, 石井當男, 折笠秀樹, 河合忠一, 児玉和久, 猿田享男, 中島光好, 野々木宏, 平山篤志, 細田嵯一, 由井芳樹, and J-MIC(B) Study Group.: 虚血性心疾患を合併した本態性高血圧における長期薬物療法の検討: J-MIC(B)中間報告. 第64回日本循環器学会 2000, 4, 大阪(Japan Circulation Journal. 64 (Suppl I), 439, 2000, 3).
- 2) Shimozuma K, Katsumata N, Ohashi Y, Makino H, Takashima S, Sonoo H, Watanabe T, for the NSAS-BC Investigators(折笠はNSAS-BCの一員): Impact of surgical adjuvant chemotherapy on quality of life (QOL) of patients with breast cancer (BC) for the first year of treatment - a phase III randomized trial comparing UFT(Uracil/Tegafur) with CMF in high-risk node negative patients(NSAS-BC 01). The 36th American Society of Clinical Oncology Annual Meeting, 2000, 5, New Orleans.
- 3) Kazumi T, Kikkawa R, Yoshino G, Nakashima M, Origasa H, Baba S, and J-MIND Study Group: Long-term effect of nifedipine retard versus enalapril therapy on the incidence of cardiovascular events in hypertensive type 2 diabetic patients. The International Bayer Symposium on Cardiovascular Risk management, 2000, 5, Berlin.
- 4) 折笠秀樹: 神経疾患における評価尺度の信頼性と妥当性 (特別講演). 第20回運動障害研究会, 2000, 7, 東京.
- 5) 折笠秀樹, 内潟安子, 坂巻弘之: 糖尿病患者におけるSF-36とEuroQOLの関連性について. 第21回日本臨床薬理学会, 2000, 9, 札幌.
- 6) 梁 尚志, 高田 実, 樋口佳苗, 築山正嗣, 清水俊雄, 山本信之, 中川和彦, 福岡正博, 折笠秀樹: 進行非小細胞肺癌のCisplatin + 旧薬 vs Cisplatin + 新薬のmeta-analysis. 第38回日本癌治療学会, 2000, 10, 仙台 (日本癌治療学会誌, 35(2): 468, 2000, 9).
- 7) Handa S, Hosoda S, Sasayama S, Hori M, Kitabatake A, Toyo-oka T, Yokoyama A, Matsuzaki M, Takeshita A, Matsui K, Origasa H, for the MUCHA Investigators: Multicenter carvedilol heart failure dose assessment(MUCHA)trial. 第4回日本心不全学会, 2000, 10, 神戸.
- 8) 各務伸一, 松嶋 喬, 佐藤俊一, 小林健一, 清澤研道, 林 紀夫, 辻 孝夫, 佐田道夫, 折笠秀樹, 飯野四郎: C型慢性活動性肝炎に対するrIFN α -2a投与初期の効果予測ポイントの検討. 第8回日本消化器関連学会 (DDW2000). 2000, 10, 神戸.
- 9) 折笠秀樹: 糖尿病診療ガイドライン作成の過程とEvidence (シンポジウム). 第15回糖尿病合併症学会, 2000, 10, 東京.
- 10) Sakamaki H, Uchigata Y, Origasa H, Otani T, Ikeda S, Ikegami N, Otani Y, Iwamoto Y: Measurement of HRQL using Euro Qol(EQ-5D)in patients with type 2 diabetes mellitus in Japan. International Society for Quality of Life Research, 2000.10, Vancouver(Quality of Life Research. 2000 ; 9(3) : 280. -as an Abstract 1475).
- 11) 梁 尚志, 折笠秀樹, 高田 実, 清水俊雄, 山上富美子, 井島聖行, 金田裕靖, 西野朋子, 葛本佳正, 四方 一, 山本信之, 中川和彦, 福岡正博: 進行非小細胞肺癌のCisplatin + 旧薬vs Cisplatin + 新薬のmeta-analysis. 第41回日本肺癌学会総会, 2000. 11, 東京(肺癌: Vol.40, No.5, 「ワークショップ7: 非小細胞肺癌化学療法の新しい展開」(W7-6: p.375, 2000)).
- 12) 折笠秀樹: EBMとは - 診療情報管理分野のノウハウ (特別講演). 第22回民医連診療録管理研究会, 2000, 11, 倉敷.
- 13) 折笠秀樹: 漢方方剤のEBM. 日本生薬学会・和漢医薬学会合同シンポジウム, 2000. 12, 富山 (講演要旨集: 42-44, 2000).

◆ その他

- 1) 折笠秀樹: 多施設共同臨床研究をどう行うべきか? (特別講演). 大阪消化器がん化学療法研究会, 2000, 1, 大阪.
- 2) 折笠秀樹, (聞き手) 大西 真: EBMからみた高血圧治療(2)無作為化試験とメタアナリシス (座談会). ラジオ短波, 2月25日放送, 2000.
- 3) 折笠秀樹: 糖尿病診療におけるEBMおよびガイドラインについて. 第22回大阪市立大学糖尿病研究会, 2000. 3, 大阪.
- 4) 福原俊一, 前田憲志, 折笠秀樹, 大石 明: 保

存期慢性腎不全高齢患者（非糖尿病性）の低蛋白療法の効果に関する研究（H11-長寿-025）. 厚生科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）研究報告書, 2000, 4.

- 5) 計見一雄, 他（折笠秀樹は研究協力者の一人）: 急性期精神病入院医療における医療資源の適正基準及び予後予測因子に関する研究. 平成11年度厚生科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）研究報告書, 2000, 4.
- 6) 折笠秀樹: 糖尿病診療ガイドライン作成の過程について. 科学的根拠（evidence）に基づく糖尿病診療ガイドラインの策定に関する研究. 平成11年度厚生科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）研究報告書（赤沼安夫, 主任研究者）, p.3-9, 2000.
- 7) 折笠秀樹: EBMと漢方診療. 日本漢方生薬製剤協会講演会, 2000, 4, 東京.
- 8) 折笠秀樹: エビデンスに基づく薬物療法: 薬剤師のためのEBM入門（特別講演）. 富山県薬剤師会総会, 2000, 5, 富山.
- 9) 折笠秀樹: 臨床試験における統計的支援. 厚生省技術研修会, 2000, 7, 東京.
- 10) 折笠秀樹（組織委員長）: 公開講座「クオリティ・オブ・ライフ入門」講習会, 2000, 7, 富山.
- 11) 折笠秀樹: UKPDSスタディに関する追加発言. 第1回糖尿病トータルケア・フォーラム資料集, P.9, 2000, 7, 東京.
- 12) 折笠秀樹: 情報の見分け方. 糖尿病のEBMワークショップ（金澤・田嶋）, 2000, 8, 自治医大研修センター・栃木.
- 13) 野村英樹, 松倉知晴, 折笠秀樹, 小泉順次: EBM（根拠に基づく医療）の実践. EBMワークショップ, 2000, 10, 金沢.
- 14) 折笠秀樹: EBMと漢方診療. 「日漢協講演会: EBMと漢方（寺澤捷年・座長）」, pp.4-19, 2000.
- 15) 折笠秀樹: 保健医療におけるメタアナリシスの功罪: 診断検査への応用を踏まえて. EBD Forum 2000, 2000, 10, 東京.
- 16) 折笠秀樹（司会）: 「QOL測定における信頼性と妥当性」シンポジウム, パネル討論会. 文部省科研費シンポジウム（丸山久美子, 担当）, 2000, 11, 東京.

英 語

教 授 藤 本 正 文
助 教 授 濱 西 和 子
助 教 授 松 倉 茂
外国人教師 エリザベス・ホランダース

◆ 研究概要

（藤本）米文学, 辞書論

（濱西）英文学, 仏文学

（松倉）認知言語学

（ホランダース）Teaching of English to Speakers of Other Languages. Conversation Analysis.

◆ 原 著

- 1) 濱西和子: 『失われた時を求めて』に於ける「眠り」についての考察, 富山医科薬科大学一般教育研究紀要, 23号, 1-26, 2000.

◆ その他

- 1) 濱西和子: 文部省在外研究, パリ第4大学, 英米と仏文小説の比較研究, 7月-9月, 2000.

独 語

助 教 授 名 執 基 樹

◆ 研究概要

文学システムの経験的研究. 文学など人間の文化を制作・媒介・受容・評価などの諸行為によって営まれる社会現象（文学システム）と捉え調査する. 目下, 文学賞の受賞データをもとに, そこにあらわれている文学システムの権威構造を調査している.

◆ 原 著

- 1) 名執基樹: 文学賞と文学場—輩出関係のネットワーク分析—. 富山医科薬科大学一般教育研究紀要, 24: 1-35, 2000.

保 健 体 育

教 授 小 野 寺 孝 一

◆ 研究概要

生活習慣病を対象に運動や食事による改善法に取り組んでいる. また児童生徒の体力向上の対策についても検討している.

◆ 学会報告